

石川県医師会 J M A T 第 5 班報告

石川県医師会長
小森 貴

今回の東北地方太平洋沖地震については、県内からは地震直後からDMA T・日赤救護班、また公私立病院から医療救護班が被災地で活動しています。亡くなられた方々に対し深い哀悼の意を表しますとともに、被災地の方々にお見舞い申し上げます。

石川県医師会といたしましては、全力で被災地の方々に支援する観点から、すでにJMA Tチームを、4チーム派遣しています。今回、第5班を3月31日から4月6日の間、派遣いたしましたので、報告いたします。

・参加者

- ・ 小森貴 石川県医師会長・小森耳鼻咽喉科医院長
- ・ 中出明美 小森耳鼻咽喉科医院看護師
- ・ 郡司正之 アイリス薬局薬剤師
- ・ 村田紀文 石川県医師会事務局員

・ 3月31日

- ・ 午後2時20分 石川県医師会館前にて、派遣チーム出発式。近藤理事、斉藤理事、倉西会員、県医師会、県医師国保組合、県医師信用組合、県医師協同組合、県医療在宅医療ケア事業団職員の見送りのもと、出発。
- ・ 北國新聞社、北陸放送の取材。
- ・ 北陸道を利用し、黒埼SAにて給油。磐越道に入り、安達太良SAにて2度目の給油。途中五百川PA付近で路肩崩落。
- ・ 20時10分ごろ福島市到着。ビジネスホテル宿泊。



-
-
- 4月1日

- ホテルを6時50分出発。相馬市までの道は混雑。相馬市保健センター8時20分ごろ到着。相馬市には、静岡県チームと我々の2チーム。やわたメディカルセンターチームからの引継ぎ。池永医師、看護師から、とても大切なお話を伺う。センター所長、各避難所保健師さんからの報告。阪大、独協医大からの心のチームからの報告と共にアドバイスも頂く。私たちは、はまなす館担当。避難者は約500名。9時過ぎに診療所開設。終日、診療、訪問などにあたる。
- 避難者の多くは津波のため海岸付近で家族がいまだ行方不明の方が多く、お話は切実。心してお話をお聞きするように努める。
- 体調が悪く、臥せっている方のお部屋を訪問。69歳の女性がインフルエンザA型強陽性。軽い見当識障害もあり、公立相馬総合病院に搬送。同室から2名のインフルエンザ患者が発生。直ちに部屋の換気とマスクエチケットの徹底。
- 昼食時、相馬市長から面会の申し出。表敬するとともに、インフルエンザ簡易キット、抗インフルエンザ薬の十分な供給を要請。
- 昼食は、各々持参のカップラーメン。
- 午後、発症患者と同室の方々および家族にタミフル予防投与開始。ならびに、はまなす館において、手洗い・うがい大作戦開始。
- 18時半ごろ本日の診療終了引き続いてミーティング。
- 明日以降は、あらためてご報告します。

- ・ 22 時現在、帯同カウンター指標、0.003mシーベルト



- ・ 4月2日
- ・ 8時半、相馬市保健センターにおいてミーティング。今日から新しいチームが参加多数。
- ・ 医療チームは、静岡県2チーム（1チームは交代・1チームは新規）、奈良県、千葉県、東京医大、そして我々石川県チーム。他に岐阜県から薬剤師、大分県から保健師。会場は心のケアチームを加え、熱気あふれる雰囲気
- ・ 静岡県チームは「炊き出し班と専用の施設」まで用意され、一部避難所で「ぜんざい」を振舞われたよう。
- ・ 我々は昨日に引き続いて「はまなす館」（もっとも要介護の多い、さらに沿岸部で家族にいまだ行方不明者が多い避難所）。朝食の終わる時間を考慮し、10時診療開始。昨日、新たにインフルエンザを発症した方を含め、同室から3名のインフルエンザ患者発生となったが、今日は発熱患者皆無。
- ・ 診察患者数は31名。余裕の時間は、各部屋、特に要介護患者を重点に訪問し、医療・介護・お世話とお話。
- ・ 能登半島地震のあと、住民の方々が2年、3年、4年という長い経過の中で、苦勞されながら、いま再び活気を取り戻しているお話をさせていただくと、皆様が涙ぐみながらうなずいていらっしゃる姿が印象的。心を打たれる。
- ・ 薬剤師の郡司さんが工夫して、前日までに足りない薬を補充してくださり、当医療班の薬局機能が大幅に向上。
- ・ お昼休みの時間を利用して、相馬市医師会長杉本広先生、浜通りふれあい

クリニック金田京子先生を表敬訪問、有意義な意見交換をした。

- ・ 昼食は保健センターにて各自持参のカップラーメン。
- ・ 午後、脊髄損傷の方の奥様が来てくださり、苦勞話をお話していただいた。チーム一同、感激と共に暖かい連帯感。
- ・ 咳を訴える方が相変わらず多いが、病態以上に、プライバシーの無い避難所生活での隣人への気兼ねが原因と推察される。
- ・ 今日インフルエンザ発症患者と同室の方々ならびに家族に対してタミフル予防投与。
- ・ 明日は、相馬市保健センターで発見したアリナミン複合錠を、避難所在住全員に服用していただく予定。
- ・ 22時30分現在、帯同カウンター指標、0.014m シーベルト。(積算)



・ 4月3日

- ・ 午前5時半起床。8時半、保健センターでのミーティング。石川県医師会 JMAT担当は昨日と同様、はまなす館。
- ・ はまなす館にて診療開始。10時ごろ、昨夜からの高熱の子供さんが受診。一昨日インフルエンザA型を発病した方のお孫さん。インフルエンザ簡易検査陰性。念のためタミフル投与しつつ、午後の再検査を指示。
- ・ 昼時間を利用して、もっとも被害の酷い磯部地区を中心に視察。想像を絶する現状を目の当たりにして、言葉の無力さをただ認識（緊急車両での視察であることから特別な行動を許可され、動画でも記録しましたが、あまりの惨状で、機会があればお示しします）。
- ・ 相馬市保健センターでカップラーメンの昼食。
- ・ 保健センターに柏村相馬郡医師会長（相馬市・南相馬市・新地町・飯館村などの地域医師会で構成される医師会長）が来所され、小職への面談・要請。特に南相馬市等での厳しい現状認識を話される。原発周囲30kmでの医療の窮状、病院機能・診療所機能の廃絶。未来を描けないなかでの努力

の詳細をお聞きした。

- 午後の診療では、午前診療した子供さんの再検査の結果はインフルエンザA型陽性。恐れていた事態が発生。ご本人は高熱以外には症状は無いようだが、避難所からの隔離が必要なため、急遽、「相馬市中央児童センター（隔離施設として新たに設置）」に家族全員が移動するよう指示。
- 以前の同室の避難者・家族に加え、新しく発生した患者の同室の方々にもタミフル予防投与開始。
- 相変わらず、咳を中心とする上気道炎症状の患者が多い。他には、便秘、不眠を中心とする、避難所生活での生活から発生する病態が多く、懸命に対応。
- 要介護者が多い施設であり、一人ひとりに診察・語りかけ・お話を聞き取りなど。
- 看護師の中出さん、事務職の村田君が、カルテの所在・記載方法など詳細を検討・改善してくださり、診療の密度の向上を実感。
- 喘息発作の患者あり、オノン・メプチン・アドエアの既投与あり、ネオフィリンの点滴。
- 午後6時半ごろ、はまなす館での診療終了。
- はまなす館での夕食は「カップラーメン・おにぎり一個・ポテトフライ・ミルクココア」明らかに栄養の偏り。震災発生後3週間にしての現状。たった3日間だが信頼関係のできた在所者がカメラ撮影を許可され、窮状の発信を依頼された。昨日企画したビタミン剤の全員への配布を早速実施。
- インフルエンザを発症した子供さんとご家族がいらっしゃる「相馬市中央児童センター」を往診。高熱は続いているが、脳症の発症がないことを確認の上、小職の携帯電話番号をお母様にお伝えして帰還。
- 午後11時30分現在、携帯カウンター指標、0,026シーベルト。





- ・ 4月4日
- ・ 朝、5時半起床。8時半から相馬市保健センターにてミーティング。医療チームは前日と同様。群馬県薬剤師チームは帰県。新たに保健師チームが派遣される予定。
- ・ 児童生徒の新学期を迎え、新たに、中村二小学校、中村二中学校に避難所を開設。同学校区住民に移動を勧奨する意向が示された。これにあわせて、静岡県チームの担当も変更。我々石川県チームは以前と同様、はまなす館を担当。これからの長い復興の期間、静岡県医師会と石川県医師会が、避難所の住民の健康とそのいのちを守り続けることを確認。
- ・ 昨日、インフルエンザA型を発症した子供さんを、相馬市中央児童センターに往診。解熱し、元気であり、一緒にピースマークで喜び合う。ご家族の発熱も無い。
- ・ 昨日と同様、避難者の症状とご不満の訴えには、長い避難所生活が原因と推察される病態あり。一斉換気はおおむね好評。
- ・ はまなす館（4月4日現在、505名在所）に避難されている方々は、津波の被害が最も大きな磯部町と周辺の地区の住民が大半を占めている。毎日、午前、午後の二回、死体安置所への巡回バスの案内があり、未だ生死不明のご家族、ご縁戚の安否を確認するために多くの在所者が乗車される。毎日、新たな死亡者の確認がされ、悲嘆にくれた方々の絶望と怨嗟の響きが会館を覆う。
- ・ 子供たちも診察に訪れるが、彼らの和やかな笑い声を作るのが私たちの使命。
- ・ 毎日、訪問している要介護者の部屋で、笑顔が見られるのも救い。一緒の時間をできるだけ設定し、足をおさすりしたり、手をお揉みしたり、とりとめない話をしたりして過ごす。

- ・ はまなす館では、調理場のスペースも少ない（担当者談）ことから、相変わらず、インスタント食品のみといってもよい食事状態。
- ・ 改善のためには、被害の比較的少ない近隣の自治体の、小中学校給食施設の活用が不可欠ではないか。たとえば、学校給食を週に三日とし、他の日は避難所在者への給食を行う。これらの事情を児童生徒と両親にも理解していただければ、広域での地域連帯、住民連帯にも繋がるのではないかと思う。
- ・ 次チーム浅野川病院と連絡が取れ、4月6日午前中に引き継ぎを行うことが確認された。
- ・ 石川県医師会が、太い綱を切れ目無く現地に提供できることを目指したい。
- ・ 本稿を記載している間にも、参加希望の会員からの電話があった。深甚の感謝を捧げたい。
- ・ 23時10分現在、帯同カウンター指標。0,035mシーベルト（積算）



- ・ 4月5日
- ・ 朝5時半起床、8時半、相馬市保健センターにてミーティング。静岡県、奈良県チームは本日帰県。新たに全日本病院協会から木村佑介先生チーム、静岡県から伊豆保健医療センターチームと交代。中村二小学校、中村二中学校での避難所開設により、はまなす館在所者は525名から429名に減少。我々は引き続いて、はまなす館が担当。
- ・ 今後の医療救護活動のあり方について熱い議論。今後の長い復興への道程には、地元医師会の主導が不可欠であることを主張。昼食時に、柏村相馬

郡医師会長、杉本相馬市医師会長の参加を要請し、議論を深めることにした。

- ・ 9時半、診療開始。慢性疾患患者で、震災以来、薬を服用していないままの方が多くみられる。かかりつけ医のある方には、該当医療機関が診療を開始していることを確認の上、紹介。南相馬市などからの避難者で、かかりつけ医療機関が被災のため廃絶されたと考えられる場合には、当面の薬を処方しつつ、相馬市内医療機関での継続した加療・管理を指導し、同意を得られた方には紹介状記載。
- ・ 午後一時、柏村相馬郡医師会長、杉本相馬市医師会長、荒相馬市医師会副会長等がセンターに来られ、懇談。この結果、本日から「相馬市医療救護班連絡会」を発足。議長は地元医師会長。後見を私。コーディネーターは中村先生が担当。会議は、朝8時半、午後5時の2回、各々30分。時間厳守。担当業務が繁忙であるときは、連絡の上、欠席可。心のケアチーム・エコノミー症候群防止専門チームなどの効果的な運用についても、当該会議の対象とする。相馬市内病院・診療所との連携深化を図る。などが確認され、第一回会議を午後5時から発足することを決定した。
- ・ 相馬市長に対して、避難所における食事内容の問題について指摘。学校給食施設の運用を提案。
- ・ 2時、診療再開。あいかわらず、咳、便秘、吐き気、不眠などの症状を訴える患者が多い。本日、初めて花粉症発作の患者が受診。当地区でのスギ花粉症はこれからなのかもしれない。
- ・ この数日、磯部地区で、ご遺体の発見が多くあり、遺体安置所へのバスには多くの在り者が乗車される。館内でご家族・ご親戚の死亡確認のお話を多く伺う。
- ・ 要介護者を中心に訪問し、語りかけなど。活動5日目となったため、お部屋を訪問するだけで、笑顔で迎えられるようになったことが、何よりの喜び。
- ・ 午後5時、「第一回医療救護班連絡会」。私から連絡会発足の経緯と意義、今後の運営方針について説明。全チームから簡潔な報告。
- ・ 6時、診療終了。只野相馬市社会福祉協会長、鈴木同協会常務理事から、はまなす館において、学校給食施設からの食事の提供が決まったことが報告され、感謝の言葉を頂き感激。
- ・ インフルエンザ発症児童を相馬市中央児童センターに訪問し、元気であることを確認して帰還。
- ・ 23時現在、帯同カウンター指標。0.047mシーベルト（積算）



・4月6日

- ・朝4時15分起床、昨晚書き損ねた報告書作成。
- ・8時半、相馬市保健センターにて「第2回医療救護班連絡会」開催。議長(杉本相馬市医師会長)から挨拶のあと、私から、本日の会議の検討課題を説明後、新しく入った福島医大心のケアチームの紹介。岡和田所長から相馬市対策本部からの報告。新しく開設された中村二小学校 157名、二中学校 89名、一中学校 75名が、それぞれ移動。このため、はまなす館在所者は昨日までの 525名から 431名に減少。一方、南相馬市からの避難者を受け入れている旧相馬女子高校の在所者は 566名とむしろ増加傾向。私からはまなす館でのインフルエンザ発症者の現状を報告するとともに、木村コーディネーターの司会のもと、各チームから問題点の報告。最後に議長から閉会の挨拶。
- ・医療救護班連絡会が、地元医師会の主導のもと、これから長く続くであろう復興の礎となることを期待。
- ・インフルエンザ発症児童を相馬市中央児童センターに往診。元気な笑顔に安心。
- ・9時30分、診療開始。風邪症状、不眠、高血圧の方が相変わらず多い。
- ・10時ごろ、浅野川病院チームから相馬市に入ったことが電話で報告される。村田事務局員が、相馬市保健センターを案内後、はまなす館に到着。
- ・患者・カルテ・薬剤などの引継ぎとともに、要介護者の部屋にご案内し、私から6日間お世話させていただいたことにお礼を申し上げた。新しいチームからもご挨拶。
- ・はまなす館館長から、4月18日から学校給食センターから、土日問わず、配食が開始されることが決まったとお聞きする。避難者の食事環境が大きく改善されることに安堵。

- 12時半、はまなす館出発。14時15分、福島県医師会館。高谷会長に表敬するとともに、6日間の活動報告。これからも石川県医師会が全力で支援することを約束。高谷会長から感謝のお言葉をいただく。我々の車が会館から道路に出るときに、会長自ら、往来する車を止めて送ってくださった。
- 東北道、磐越道をへて北陸道。途中一度給油し、20時40分金沢に到着。
- チーム4名は全員元気。お疲れ様でした。
- 20時40分現在、帯同カウンター指標。0.086mシーベルト（積算）

